

## 金城学院 女性リーダー 鼎談



### 女性ならではの視点を 金城学院の運営に活かしていきたい。

— 大学、中高、幼稚園のトップが揃って女性になりましたね。

**小室尚子学長（以下敬称略：小室）** 各校のトップがすべて女性というのは初めてのことで、しかも揃って金城学院の卒業生。これは私たちが意図したわけではなくて、偶然の巡り合わせです。私たちの言葉でいえば、神様の計画だったのかなと思います。女性3人がトップになったことで、これまでは男性目線で進んできたことを女性目線で見ていくことができるようになりました。このチャンスを学院運営に活かしていけると良いと思っています。

**長屋頼子校長（以下敬称略：長屋）** 小室先生は私が大学時代にキリスト教センターにいらして、直にご指導を受けました。それ以来のおつきあいで、長屋先生、というよりは頼子さんと呼んでいたが、親しくさせていただいています。児玉先生とは一緒にするようになってまだ日が浅いのですが、いつも優しい言葉をかけてくださいます。神様が私たちを巡り合わせてくださったことに感謝しています。

**児玉芽園長（以下敬称略：児玉）** 私たち3人を神様に集めてい

ただいて、その意味はなんだろうといつも考えて仕事に向き合っています。私が園長に就任したのが今年4月。保育のことはともかく、運営のこととなると不明なことも多く不安と緊張でいっぱいです。お二人はそんな私を忘れずに、いつも声をかけてくださいます。優しさの中に強さを併せ持つお二人は、私の憧れの存在です。優しさと強さを併せ持つことは、実はとても難しいことなので。

— 女性トップであることで、困ることはありませんか。

**小室** 大学はこれまでずっと男性中心の世界で、男性の目線で運営が行われてきました。そういう歴史は確かにあるのですが、実際に中に入ってみると、ジェンダーバイアスはほとんど感じません。副学長や学長補佐、大学事務部長などで行う会議においても同様です。良い時期に、良いメンバーに恵まれたと感謝しています。

**児玉** 幼稚園はもともと女性が多い職場ですが、昨今は男性の園長や教諭の数も徐々に増えてきています。社会が女性活躍を推進するのと同様に、保育の現場でも男性の活躍を推進するダイバーシティが進んでいるのだと思います。

**長屋** 校長、副校長という管理職でいえば女性は確かに少数ですが、金城学院の中高においては、校長直属組織の長や分掌課長

# 私たちが想う、 金城らしさとは。 そして、 学院がこれから 向かうべき道は。

金城学院学院長および大学学長を務める小室尚子先生。  
中学校・高等学校の校長を務める長屋頼子先生。  
そして今年4月、幼稚園園長に就任した児玉芽先生。  
組織のトップとして、学院の卒業生として、  
縁あってこの場に居合わせた3人が語る、  
リーダーとしての想い、そして未来へ伝えたいこと。

や学年主任の多くが女性です。特に分掌課長や学年主任は選挙で選ばれますから、男性だからとか女性だからという思いは、先生方にはないと思います。

**小室** 学院には人をおおらかに受け入れていくという土壌がある。人を型にはめたり、女のくせにという人もいないので、先生方もびのびやっておられるのではないのでしょうか。

**長屋** そう、皆さん、本当にびのびやっています。私がさまざまな改革を進めることができるのも、ジェンダーにとらわれず、それぞれの個性と能力を発揮できる環境があるからこそです。

**児玉** 幼稚園では今年、園長と事務が同時に変わって大変なのですが、本部の方には本当に助けていただいています。どなたに相談してもとても親切に答えてくださり、サポートして下さいます。そういう意味では、金城学院はひとつの大きなチームであり、チーム力も高いのだと思います。

—— リーダーとして大切にしたいこと、心がけていることは。

**長屋** 私が校長になる時に理事長先生にお願いしたのは、授業を持たせてくださいということ。例えばテストがあれば、生徒たちは勉強します。先生たちはテスト問題を作っています。校長室に

いるだけではそれが共有できません。生徒や教職員がどんな動きをしているのかを常に共有したいという想いが強くあります。校長室でもお湯は沸かせますが、私は必ず職員室にいき、先生方と話をしながらお茶を入れます。放課になれば廊下に出て、生徒たちと話をします。それが私の流儀です。

**児玉** それはすごくわかります。私もしょっちゅう行方不明になるんです。やっぱり子どもと関わりたいし、職員がどう子どもたちと関わっているのかを共有していきたいと思うので。保育って答えがあってないようなものなので、それは大事にしたいと思っています。ですから、朝のお迎えも必ず玄関に立って、保護者や子どもたちとふれあいます。それは歴代の園長が皆やってきたことです。

**小室** 私も授業を続けたいという希望を受け入れていただき、週1の授業「聖書の女性観」と15回あるオムニバス授業のいくつかを担当しています。大学や中高のトップで授業を持つ方はほとんどいらっしゃいませんが、やっぱり授業をしている時が一番楽しいし、学生たちに直接メッセージを伝える大事な時間ですから。

—— 3人はリーダーをめざす生徒や学生にとっても良きロールモデルだと思います。

**小室** 社会に出てどのような立場で活躍するかは人それぞれです。誰もがリーダーにならなくていいし、リーダーを支える人になってもいい。いずれにせよ、自分の持っている力を見出して存分に活かしてもらえればいいと願っています。そのためにも自ら考え、いろいろなことに挑戦してほしいですね。

## 金城学院の存在意義（ブランドパーパス） 『互いの尊厳を認め、互いを生かしあえる 愛に基づく社会をつくる』

—— 金城学院の強み、魅力はなんだと思いますか。

**小室** 毎朝の礼拝などで、先生方が聖書の話や、人としての在り方や生きる意味をお話しする時間があること。何を言っているのかその時にはわからなくても、卒業していろいろな経験をしていく中でその意味に気づき、心のよりどころにいただけると、本当に女性たちが輝いてきます。

**児玉** 私は一度外に出て、また学院に戻らせていただいたのでよくわかるのですが、学院の中にはとても温かな空気が流れています。「学生も生徒も子どもたちもみんなファミリーだよ」という想いが根底にあることが、他校との決定的な違いなのかなと思います。

**長屋** ファミリーだからこそ、大学、中高、幼稚園が垣根を越えて協力しあえます。たとえば大学の先生が高校の授業に来てくださる。あるいは今はコロナ禍でできませんが、高校のキャラバン隊が幼稚園に行き奉仕をさせていただき、生徒も園児も共に学びあう。そんな学びの環境があることが学院の強さにも魅力にもなっています。

— 金城学院では、今年度より存在意義（ブランドパーパス）を定めました。その背景や意図は为什么呢。

**小室** 環境問題や人権問題など、現代社会はいま様々な問題を抱えています。そうした中で、金城学院や各校がこれら人類全体の課題とどう向き合うのか、どのような未来の創造を目指しているのか。それを表明する言葉として定めたのが、ブランドパーパス『互いの尊厳を認め、互いを生かしあえる愛に基づく社会をつくる』です。そのパーパスは、生徒、学生、教職員の理解と共感を得ることはもちろん、女性の全人教育のさらなる深化を進めていきます。突き詰めれば、これは開学以来ずっと貫いてきた学院の精神そのもので、あらゆる隣人に関心を持ち、愛をもって行動できる女性を輩出し続けることで様々な社会課題を解決し、持続可能な未来を目指していくという、学院ならではのメッセージでもあるのです。

**児玉** 幼稚園のスクールモットー『愛され、育ちあう。』も、根底に流れているのは建学の精神。神さまの無限の愛に生かされている者たちとして、互いに愛しあい尊重しながら、それぞれに与えられた賜物を活かし、社会に貢献できる人に育ってほしいという願いが込められています。

**長屋** 中高ではキリスト教教育を通じて「社会に参画し、主体的に生きる」女性を育成しています。コロナ禍ではこんなエピソードがありました。日本では2020年2月下旬に流行が始まりましたが、3月に予定されていたグリークラブと軽音楽部の定期演奏会を中止に、空手道部も全国大会への参加をストップさせました。それは本当に胸が痛むことでした。そんな時、当時高校3年生だった軽音楽部の生徒が2人訪ねてきて「定期演奏会、なんとかなりませんか」と言うんです。「自分の命。家族の命。みんなは電車を通ってくるから社会的責任もある。そういうことを全て考えて中止することにしたの」と私が言うと、その時の返事が「ありが

とうございました」でした。感激しました。そんな言葉がずっと出てくるのも、中学の時から聖書を読んで、神様の言葉を聞いているからだと思います。

**小室** いま世界中の行動目標となっているSDGsにしても、掲げている17の目標にはキリスト教の教えと通じるものが多いです。他者を思いやる優しさ、人の役に立ちたいと思う優しさ、そして社会の課題に向き合い、具体的な行動に移すことができる強さ。このふたつを併せ持つ金城生たちは、きっと社会のために自身の力を発揮してくれると信じています。

— 最後に、今後の目標、抱負をお聞かせください。

**児玉** せっかく中学、高校、大学と同じ学院の中にあるので、お互いの連携をもっと深め、子どもたちにとっても、生徒や学生にとっても学びあえるような機会を持ちたいと思っています。

**長屋** 女性3人がトップになったことで、心を割っているいろいろなことが話し合えるようになりました。「こんなことできないかしら」と、ちょっとしたアイデアも忌憚なく話しができ、そこから素敵なアイデアが生まれることもあって、力が湧いてきます。これからも3人のチームワークを高め、学生、生徒、子どもたちのためにできることを、力いっぱいやっていきたいと思っています。

**小室** 大学では来年4月に看護学部が新たにスタートします。校舎も建築中で、来年3月に完成予定です。新しくお迎えする先生方ともよく話をするのですが、皆さんおっしゃるのは「グローバルな視野を持った看護職者を育てたい」ということ。今は日本に住む外国人の数も増え、多様化が進んでいます。そんな人たちに寄り添う看護を実践できる知識と技術、グローバルな視野を育てたいということです。そんな志をともにする皆さまのご入学を心よりお待ちしております。



学校法人金城学院 学院長  
金城学院大学 学長

## 小室 尚子

金城学院中学校・高等学校を経て、金城学院大学文学部国文学科卒業。東京神学大学と米ウエスタン神学校でそれぞれ神学の修士号を取得（M.Div./Th.M.）。東京神学大学大学院博士課程後期課程単位取得退学。日本基督教団井草教会、富士見町教会牧師、東京女子大学准教授などを経て、2009年金城学院宗教総主事・教授に。2020年金城学院大学学長、2021年金城学院学院長に就任。



金城学院中学校・高等学校 校長

## 長屋 頼子

金城学院中学校、高等学校、金城学院大学文学部社会学科を卒業。1988年金城学院中学校教諭、1996年金城学院高等学校教諭。2012～2013年金城学院高等学校教頭。2014～2017年金城学院高等学校副校長。2018年金城学院中学校・高等学校校長に就任。



金城学院幼稚園 園長

## 児玉 芽

1984年金城学院大学家政学部児童学科卒業。1984～1991年金城学院幼稚園に教諭として勤務。2007～2018年瀬川保育園保育士を経て2018年金城学院幼稚園教諭に着任。2019年には副園長、2021年に園長に就任。2017年より金城学院大学人間科学部現代子ども学科（現現代子ども教育学科）の非常勤講師も兼任。